

管理薬剤師、4人に1人が「高ストレス」

「責任は現場・意志決定は本部」に課題〈薬剤師の働き方④〉



管理薬剤師は臨床業務からマネジメント、数値管理までを担うプレイングマネージャー（イラストはAI作成）

管理薬剤師の働き方を巡り、負担の大きさとその役割が各店舗共通の課題になっている。管理薬剤師を対象とした研究では、4人に1人以上が「高ストレス」と分類された。背景には、管理薬剤師は店舗単位で業務を行うことが多く、負担が組織全体としてみえにくい側面があるとみられる。管理薬剤師のワーク・エンゲージメント（活力・献身・熱中）を高めるための方策を2回にわたって考える。

この研究を行った「ヘルスケア専門職のためのワーク・エンゲージメント向上プロジェクト（HAPEE-pj）」で、リーダーを務める星薬科大の伊藤由香里氏は、「高齢化する

社会で医療専門職不足が深刻化していることから、薬剤師のワーク・エンゲージメントを高めることが不可欠」と指摘。そのためには、経営層と現場スタッフをつなぐ役割を担う管理薬剤師のワーク・エンゲージメントを高めることが重要になるとの考えを示す。一方、現場では、働きがいを感じながらも疲弊しているケースがあるという。

研究は2023～24年、日本国内の大手調剤薬局チェーンに勤務する管理薬剤師を対象にオンラインでアンケートを実施。973人の回答を分析した結果、ワーク・エンゲージメントに影響する要因として「仕事の有意義さ」「同僚からの支援」「職務の裁量」「仕事の適合感」の4つの因子が大きく関わっていることなどが明らかになった。また、職業性ストレス解析においては、25%以上が高ストレスにあると判定された。

●プレイングマネージャー構造と裁量の不足

背景にあるのが、管理薬剤師の業務構造。医薬品医療機器等法が規定する管理薬剤師はその薬局に勤務する薬剤師や事務職を監督し、医薬品などを管理する責務を負うが、多くは所属企業が定める薬局長も兼務している。調剤や服薬指導に加え、シフト作成、スタッフ教育、医療機関対応、数値の管理まで担う「プレイングマネージャー」である。



伊藤由香里氏

薬機法上、個々の店舗は独立した薬局として扱われるが、大手薬局チェーンでは本部方針に基づく運営が前提となる。伊藤氏は、「責任は現場にある一方で、意思決定は本部主導となるケースがある」と指摘する。責任と裁量のバランスが崩れやすい構造にあるという。

伊藤氏は、管理薬剤師のワーク・エンゲージメントは、周囲のスタッフにも影響するとし、戦略的に高めることが生産性・定着率の向上だけでなく、地域医療の質の持続にも不可欠だと指摘する。その上で「働きがいは個人の意識の意識だけではなく、環境と

の関係の中で生まれる」と述べ、責任に見合う裁量や支援の確保が重要だとした。（牛田 充彦）

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.

Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.

Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう